



教育講演会 子どもたちと保護者へ伝えよう

演題： 医師から見た子どものネット依存

富山大学医学系 疫学・健康政策学講座 准教授 山田正明先生

8月9日（水）立山中央小学校において、立山町教育センター主催事業 教育講演会を開催しました。今年は富山大学山田正明先生に講師をお願いしました。大変興味深いお話をされる先生なので、立山区域小中学校でも講演依頼をされたということをお聞きしました。今年5月には「とやま賞」を受賞され、実績が高い評価を受けておられる先生です。



このような山田先生から「医師から見た子どものネット依存」という演題でお話を聞きました。特に「依存症と脳」についての話では、依存症で脳は変化するという衝撃的なお話がありました。それは「脳が委縮する」「脳が壊れていく」ということで、前頭葉がなくなり我慢や理性がなくなるとつながり、特に、前頭葉が未発達な子どもは、ネットやゲームへのブレーキが利かないので、注意が必要であるというお話をされました。そして、ネット依存への対策として、子供の使用制限や使用に対する決まりが必要であること、親のネット時間を減らすことが大事であるとお話され、親子の会話を増やすようにという提案がありました。最後に「ネットの娯楽利用は1日に1～2時間であればおそらく問題はありますが、過剰利用は明らかに有害です。ネット依存の危機感を多くの児童生徒や保護者と共有したいと思います」というメッセージを添えられました。



今回の教育講演会でお聞きしたことを子どもたちや保護者の方々に伝えていく努力が必要だと強く感じました。参加された先生方には当日の講演会資料やプレゼン資料が届いていると思います。各校でその情報を共有して、広報の方法を工夫していただきたいと思います。

